



2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月15日

上場会社名 株式会社コナカ 上場取引所 東
 コード番号 7494 URL <https://www.konaka.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEOグループ代表 (氏名) 湖中 謙介
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CFO管理本部長 (氏名) 湖中 龍介 TEL 045 (825) 7700
 半期報告書提出予定日 2026年5月15日 配当支払開始予定日 2026年6月15日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	30,255	△6.3	940	△40.6	1,170	△33.6	3,198	96.2
2025年9月期中間期	32,300	△11.1	1,582	43.0	1,763	25.7	1,629	129.2

(注) 包括利益 2026年9月期中間期 1,182百万円 (18.2%) 2025年9月期中間期 1,000百万円 (16.6%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	94.91	—
2025年9月期中間期	48.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	40,866	17,678	43.3
2025年9月期	42,274	16,634	39.3

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 17,678百万円 2025年9月期 16,634百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2026年9月期	—	5.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,240	△0.4	423	—	621	—	1,585	—	47.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 社名 一、除外一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年9月期中間期	35,322,490株	2025年9月期	35,322,490株
② 期末自己株式数	2026年9月期中間期	1,536,172株	2025年9月期	1,656,601株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年9月期中間期	33,700,205株	2025年9月期中間期	33,567,542株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(中間連結貸借対照表に関する注記)	9
(中間連結損益計算書に関する注記)	9
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(追加情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復傾向が見られました。一方で、物価上昇による、生活防衛意識の高まりが消費マインドへ与える影響が懸念されます。また、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格や為替の動向など、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、ファッション事業につきましては、事業ポートフォリオの最適化を図るべく、経営資源の再配分に着手いたしました。「コナカ・フタタ」では、契約満了による退店に加え、近隣店舗との統廃合などを推し進め、店舗体制の再構築を行いました。

「SUIT SELECT」では、成人式・フレッシュャーズ向けの早期に開始した販促活動が効果的に来店を促し、『WIDE PANTS SUIT』の新作モデルやスリーピーススーツがデザインとシルエットでお客様からご好評をいただき、成人式とフレッシュャーズの売上が前年を上回りました。

オーダー専門の「DIFFERENCE」では、昨年12月にAIやデジタル技術を活用した次世代型オーダースーツブランド「FUTURE SUIT TECHNOLOGY」の第1号店を北関東に出店し、その後順調に店舗数を増やし、これまでリーチできていなかった地域及び顧客層の獲得を図りました。

構造改革中の「サマンサタバサグループ」では、不採算店舗の撤退と経費削減を推進し、収益改善に注力いたしました。

この結果、フレッシュャーズ需要の取り込みは堅調に推移したものの、退店に伴う売上の減少と諸経費の増加、加えて新業態への先行投資の影響により、ファッション事業全体としては前年同期に比べやや慎重な状況となり、売上高は286億26百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

フードサービス事業につきましては、効率化のための店舗のDX化を推し進めながら、各業態とも各種フェアや期間限定メニューが好調に推移し、売上高は11億円（前年同期比1.6%増）となりました。

教育事業につきましては、療育事業の安定化により、売上高は5億28百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

グループの店舗数につきましては、サマンサタバサグループを含め、合計13店舗を新規に出店する一方、78店舗を退店し、当社が392店舗、グループ全体で542店舗となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は302億55百万円（前年同期比6.3%減）、営業利益は9億40百万円（前年同期比40.6%減）、経常利益は11億70百万円（前年同期比33.6%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は、特別利益として投資有価証券売却益26億26百万円及び固定資産売却益6億72百万円の計上等により、31億98百万円（前年同期比96.2%増）となりました。

なお、当社グループは事業の性質上、売上高に季節的変動があり、第1四半期から第3四半期に比し第4四半期の売上高の割合が低くなります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は210億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億55百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が17億31百万円、売掛金が13億85百万円増加したことによるものであります。固定資産は198億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億62百万円減少いたしました。これは主に投資有価証券の売却等により投資その他の資産が33億52百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は408億66百万円となり、前連結会計年度末と比べ14億7百万円減少いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は180億98百万円となり、前連結会計年度末と比べ18億86百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が10億87百万円増加したものの、借入金の返済により短期借入金が33億23百万円減少したことによるものであります。固定負債は50億88百万円となり、前連結会計年度末と比べ5億65百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は231億87百万円となり、前連結会計年度末と比べ24億52百万円減少いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は176億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億44百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が19億91百万円減少したものの、親会社株主に帰属する中間純利益31億98百万円計上したことによるものであります。この結果、自己資本比率は43.3%（前連結会計年度末は39.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料の発表日現在におきましては、2025年11月14日に発表しました連結業績予想を変更していません。

詳細につきましては、本日公表の「営業外費用及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、当社グループは事業の性質上、売上高に季節的変動があり、第1四半期から第3四半期に比し第4四半期の売上高の割合が低くなります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、親会社株主に帰属する当期純利益は4億78百万円となったものの、6期連続で営業損失及び経常損失を計上しました。また、当中間連結会計期間末時点で流動比率は116.2%と流動資産の額が流動負債の額を上回っているものの、財務制限条項に抵触した金融機関借入金が存在しております。このような状況を踏まえ、当社グループは、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

当該状況を解消するために、当社においては、事業ポートフォリオの見直しを通じて経営資源を最適に配分し、採算性の向上と収益基盤の強化に努めてまいります。また、デジタル技術の活用及びDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、業務効率化と顧客体験価値の向上を図り、価値創出に向けた取り組みを一層強化してまいります。こうした施策を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。連結子会社である株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの抜本的構造改革につきましては、店舗・ブランドの効率化をはじめ、踏み込んだ具体的な計画の実施に取り組んでおります。

資金面においても、固定資産や有価証券の売却等により手元資金の充実を図り、資金流動性の最適化及び財務基盤の強化を推進いたしました。

また、取引金融機関と定期的に協議を行い良好な関係を維持することで、今後も継続的な支援を得られる見通しであることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,203	4,935
売掛金	1,991	3,377
商品及び製品	11,047	10,350
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	448	471
その他	1,879	1,890
流動資産合計	18,570	21,026
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,547	2,412
土地	6,735	6,157
その他(純額)	195	286
有形固定資産合計	9,478	8,856
無形固定資産		
商標権	1	1
その他	471	583
無形固定資産合計	473	585
投資その他の資産		
投資有価証券	3,685	669
敷金及び保証金	8,191	7,856
退職給付に係る資産	1,395	1,441
その他	494	439
貸倒引当金	△14	△8
投資その他の資産合計	13,751	10,398
固定資産合計	23,703	19,840
資産合計	42,274	40,866
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	912	1,999
電子記録債務	1,975	1,798
短期借入金	7,444	4,120
1年内返済予定の長期借入金	5,288	5,088
未払法人税等	169	290
契約負債	698	985
賞与引当金	277	277
その他	3,219	3,538
流動負債合計	19,985	18,098
固定負債		
長期借入金	1,597	1,269
退職給付に係る負債	515	510
ポイント引当金	20	16
資産除去債務	2,527	2,438
その他	993	853
固定負債合計	5,654	5,088
負債合計	25,639	23,187

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	13,433	13,098
利益剰余金	3,359	6,557
自己株式	△2,711	△2,514
株主資本合計	14,181	17,241
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,993	2
為替換算調整勘定	△31	△30
退職給付に係る調整累計額	490	464
その他の包括利益累計額合計	2,452	436
純資産合計	16,634	17,678
負債純資産合計	42,274	40,866

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	32,300	30,255
売上原価	12,864	12,055
売上総利益	19,436	18,200
販売費及び一般管理費	17,853	17,259
営業利益	1,582	940
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	22	23
不動産賃貸料	216	204
その他	125	142
営業外収益合計	367	375
営業外費用		
支払利息	93	98
不動産賃貸費用	38	31
その他	55	15
営業外費用合計	187	145
経常利益	1,763	1,170
特別利益		
固定資産売却益	1	672
投資有価証券売却益	361	2,626
その他	—	1
特別利益合計	362	3,300
特別損失		
固定資産除却損	13	4
減損損失	303	381
その他	40	53
特別損失合計	358	439
税金等調整前中間純利益	1,767	4,031
法人税、住民税及び事業税	101	97
法人税等還付税額	△1	△1
法人税等調整額	37	737
法人税等合計	137	832
中間純利益	1,629	3,198
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益	1,629	3,198

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益	1,629	3,198
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△544	△1,991
為替換算調整勘定	△73	△6
退職給付に係る調整額	△12	△25
持分法適用会社に対する持分相当額	—	7
その他の包括利益合計	△629	△2,015
中間包括利益	1,000	1,182
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,000	1,182
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,767	4,031
減価償却費	257	264
減損損失	303	381
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△6
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1	△4
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△2	△4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	21	△0
長期貸付金の家賃相殺額	32	29
敷金及び保証金の家賃相殺額	1	-
固定資産売却益	4	△672
固定資産除却損	13	4
投資有価証券売却損益 (△は益)	△361	△2,624
受取利息及び受取配当金	△25	△29
支払利息	93	98
為替差損益 (△は益)	△0	△5
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,431	△1,381
棚卸資産の増減額 (△は増加)	159	685
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,143	759
未払費用の増減額 (△は減少)	130	201
未払消費税等の増減額 (△は減少)	177	135
その他	202	476
小計	3,488	2,339
利息及び配当金の受取額	23	27
利息の支払額	△91	△100
法人税等の支払額	△152	△173
法人税等の還付額	13	25
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,282	2,119
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△238	△345
有形固定資産の売却による収入	4	1,254
有形固定資産の除却による支出	△136	△103
無形固定資産の取得による支出	△109	△213
投資有価証券の売却による収入	537	2,809
敷金及び保証金の差入による支出	△29	△100
敷金及び保証金の回収による収入	292	307
貸付金の回収による収入	5	3
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	324	3,611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	127	△3,323
長期借入金の返済による支出	△528	△528
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△0	△167
その他	△2	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△403	△4,021
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	23
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,204	1,731
現金及び現金同等物の期首残高	2,176	3,198
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,380	4,930

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(中間連結貸借対照表に関する注記)

※1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
商品及び製品	2,402百万円	1,514百万円
建物及び構築物	334	574
土地	3,202	3,202
投資有価証券	3,007	—
計	8,947	5,290

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
支払手形及び買掛金	0百万円	0百万円
短期借入金	4,813	1,780
1年内返済予定の長期借入金	1,402	1,402
長期借入金	1,568	1,254
計	7,784	4,437

※2. 当社及び一部の連結子会社においては、流動性を確保し、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座借越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
当座借越極度額及び貸出コミットメントの総額	6,834百万円	4,114百万円
借入実行残高	6,278	3,245
差引額	555	869

(中間連結損益計算書に関する注記)

※1. 売上高の季節的変動

前中間連結会計期間(自2024年10月1日至2025年3月31日)及び当中間連結会計期間(自2025年10月1日至2026年3月31日)

当社グループは事業の性質上、売上高に季節的変動があり、第1四半期から第3四半期に比し第4四半期の売上高の割合が低くなります。

※2. 販売費及び一般管理費の主な内訳は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自2024年10月1日 至2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自2025年10月1日 至2026年3月31日)
広告宣伝費	1,514百万円	1,440百万円
給料	5,014	4,879
賞与引当金繰入額	293	289
退職給付費用	66	18
賃借料	5,322	4,892

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金勘定	5,385百万円	4,935百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△5	△5
現金及び現金同等物	5,380	4,930

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する事項並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			中間連結 損益計算書 計上額 (注) 1
	ファッション	フード サービス	教育	
売上高 (注) 2				
重衣料	14,155	—	—	14,155
中衣料	2,611	—	—	2,611
軽衣料	5,190	—	—	5,190
服飾雑貨	8,319	—	—	8,319
その他	445	1,083	495	2,024
顧客との契約から生じる収益	30,721	1,083	495	32,300
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	30,721	1,083	495	32,300
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	30,721	1,083	495	32,300
セグメント利益	1,531	34	16	1,582

(注) 1. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 重衣料・・・スーツ・フォーマル・イーザーオーダー・コート

中衣料・・・ジャケット・ボトムス・アウター

軽衣料・・・カジュアル・ワイシャツ・ネクタイ・アンダーウェア

服飾雑貨・・・シューズ・バッグ・ジュエリー・アクセサリ

その他・・・サービスの提供等

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」セグメントにおいて300百万円、「教育事業」セグメントにおいて300百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する事項並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			中間連結 損益計算書 計上額 (注) 1
	ファッション	フード サービス	教育	
売上高 (注) 2				
重衣料	13,715	—	—	13,715
中衣料	2,527	—	—	2,527
軽衣料	5,192	—	—	5,192
服飾雑貨	6,697	—	—	6,697
その他	494	1,100	528	2,123
顧客との契約から生じる収益	28,626	1,100	528	30,255
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	28,626	1,100	528	30,255
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	28,626	1,100	528	30,255
セグメント利益又は損失 (△)	909	30	△0	940

(注) 1. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 重衣料・・・スーツ・フォーマル・イージーオーダー・コート
 中衣料・・・ジャケット・ボトムス・アウター
 軽衣料・・・カジュアル・ワイシャツ・ネクタイ・アンダーウェア
 服飾雑貨・・・シューズ・バッグ・ジュエリー・アクセサリー
 その他・・・サービスの提供等

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」セグメントにおいて373百万円、「教育事業」セグメントにおいて7百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(財務制限条項)

1. 当社は、借入金3,162百万円について、シンジケートローン契約を締結しておりますが、当該契約には財務制限条項がついており、当該条項は以下のとおりであります。

- (1) 連結の経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益を計画値の90%以上に維持すること
- (2) 連結の純資産額を直前期の90%以上に維持すること
- (3) 中間会計期間末及び事業年度末における単体の総借入額を運転資金の金額以下とすること

上記、財務制限条項は、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドのシンジケートローン契約にも適用されます。

2. 当社の連結子会社である株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの借入金4,432百万円については、シンジケートローン契約を締結しておりますが、当該契約には財務制限条項がついており、当該条項は以下のとおりであります。

- ・各四半期累計期間におけるサマンサ連結の経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益を計画値の90%以上に維持すること

なお、2026年2月末日において、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドは財務制限条項に抵触しておりますが、主要取引銀行と綿密な関係を維持し、定期的に建設的な協議を継続していることから、今後も主要取引銀行より継続的な支援が得られるものと考えております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。